



森林ふれあい情報

平成30年 7月
第47号

林野庁中部森林管理局
木曾森林ふれあい推進センター
〒397-0001 長野県木曾郡木曾町福島1250-7
TEL:0264(22)2122 FAX:0264(21)3151
E-mail:kiso-fureai@maff.go.jp

木曾悠久の森

第2回「木曾悠久の森写真」コンテスト 表彰式

「木曾悠久の森」は、木曾ヒノキ等で構成される温帯性針葉樹林がまとまって分布するエリアをつなぐ形として、長野県木曾郡上松町、王滝村、大桑村、岐阜県中津川市に至る国有林に設定しています。区域内には、森林浴発祥の地として知られる「赤沢自然休養林」や、優れた渓谷美で知られる「付知峡自然休養林」が含まれています。

中部森林管理局では、世界的にも希少で貴重な温帯性針葉樹林の保存と復元に向けた取り組みを始めていますが、この森林をより多くの皆様に知っていただき親しまれるよう平成27年度の第1回に続き、平成29年6月1日から平成30年1月31日まで、第2回「木曾悠久の森写真」コンテストを開催しました。

開催期間中、21名から65作品が寄せられ、樹齢300年を越える針葉樹等の雄姿をはじめ、森林を流れる滝や沢、川べりの咲く花、鮮やかな紅葉、雪景色、さらには森林浴やレジャーなど森に親しむ人たちの様子、四季折々に創り出す森林の豊かな表情をとらえた見事な力作が集まり、3月7日の審査会において、より優れた10作品を入選作品とし、このうち1点は最優秀賞として選定しました。



受賞されたみなさん



入選作品の展示

5月27日（日）、森林浴大会の参加者で賑わう赤沢自然休養林において、入選作品の表彰式を行い、計画保全部流域管理指導官から写真コンテストの入選作品の紹介に続き、最優秀賞に選ばれた愛知県在住の青木美智子様をはじめ入選された方々に共催団体の代理として当センター所長等から賞状及び副賞が贈呈され、会場に集まった方々からの祝福とともに大きな拍手に包まれていました。

表彰式後は、記念撮影とご家族も一緒になったの自然休養林内の散策を行いました。

また、自然休養林へ訪れた方にも入選作

品をご覧いただけるよう赤沢森林交流センターに展示を行いました。

今後も多くの方々に「木曾悠久の森」が浸透されていくよう各種の取り組みを進めていきたいと考えています。

入選作品の紹介は中部森林管理局ホームページでご覧いただけます。

URL <http://www.rinya.maff.go.jp/chubu/>

木曾の国有林見学会(2018春季)

木曾森林管理署管内の赤沢自然休養林で、木曾川下流域の住民を対象とした「木曾の国有林見学会(2018 春季)」を5月29日(火)に開催しました。

この催しは、江戸時代より繋がり深い木曾地域と木曾川下流の関係や、日本の森林・林業について理解を深めてもらうことを目的に、木曾川下流各市町村の方々に、木曾川源流の国有林を訪ねてもらい、木曾地域の林業の歩み、木材輸送方法(伐採地、小谷狩り、森林鉄道、林業遺産)及び、木材が名古屋市熱田白鳥湊にたどり着くまでの運材技術の変遷や木材の生地を実際に見聞きしていただくことを目的として、平成27年度から開催しています。

当日は天候にも恵まれ、名古屋市内を中心に36人が参加し、森林鉄道の車窓から見える森林と溪流が織り成す景色を眺め、また、江戸時代から約三百年余の時を刻み、見事に成長した木曾ヒノキや天然サワラがうっそうと生い茂る林内を散策し、木曾の林業

の歴史や運材方法、伊勢神宮との関わり、木曾五木の樹種の見分け方や特徴などを学習しました。

参加者からは「森林鉄道に乗ってよかった」「名古屋市では見られない自然が見れて大変よかった」といった感想が聞かれました。

この国有林見学会は、木曾復興支援の取組としても位置づけており、今後も実施にあたり参加者からの意見を企画に反映させ、より意義のある催しとなるよう努めて参ります。また、昨年度までは春と秋にそれぞれ開催していましたが、今年度は更に夏を加えて年3回を開催することとしています。



大樹で職員の説明に聞き入る参加者



散策を楽しむ参加者

ニホンジカ対策への取組

木曾地域におけるニホンジカの増加が懸念される中、昨年度から行ってきた中央アルプス山麓の国有林等でのライトセンサスによる個体数調査に加え、今年度から新たに御嶽山麓においてもライトセンサスによる調査を始めました。

それぞれ、月1回の日没後に長野県木曾地域振興局林務課および木曾森林管理署と合同で調査を行っており、5月に実施した中央アルプス山麓の第1回目の調査で、オスのニホンジカ1頭を確認しました。

また、ライトセンサスによる調査のほか、中央アルプス山麓周辺の国有林において、餌付けによる誘引捕獲試験も、昨年度に引き続き、地元の猟友会と木曾森林管理署と連携して実施する予定としています。



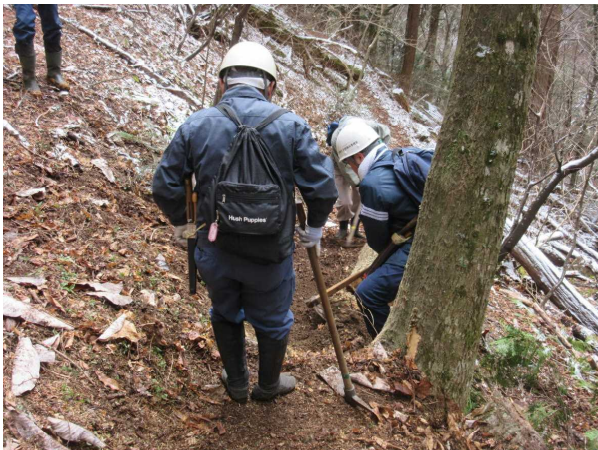
ライトセンサスによる調査

城山史跡の森

「城山史跡の森」は、木曾郡木曾町福島を中心街の近くにあり、福島城跡一帯の国有林、県有林、寺社有林を利用した気軽なハイキングコースとして知られています。

また、長野県指定希少野生動植物であるササユリ、ヤマシャクヤク等が自生しており、地元住民らで構成する「城山史跡の森倶楽部」等と連携して希少植物の保護活動等に取り組んでいます。

遊歩道整備



遊歩道の補修作業

春の観光シーズン前の4月8日（日）に、城山史跡の森倶楽部の会員、木曾森林管理署と当センターの職員を含め16名が参加し、3班に分かれて、遊歩道の点検や整備、案内板の修理や付け替え等を行いました。

今年は、前日の降雪により雪の残る中の作業で、遊歩道には倒木や崩土が多く、その除去をはじめ、階段の修理、排水のための溝掘り、案内板の付け替え等に汗を流し無事作業を終了しました。

また、今後も夏と秋にも遊歩道整備が予定されています。

電気柵の設置



電気柵の設置作業

5月14日(月)に城山史跡の森倶楽部の4名の皆さんとともに、ササユリ及びヤマシャクヤク生育地に電気柵の設置作業を行いました。

ササユリ生育地では2年前から野生動物による食害が発生していたことから、同倶楽部と連携して設置を始め、昨年はヤマシャクヤク生育地でも設置したところです。

ヤマシャクヤク生育地では急傾斜地等により足場が悪く、また、ササユリ生育地では雑草等の繁茂のため設置に苦労しましたが、無事に終わることができました。

今後も地域の方々と連携した希少植物の保全活動等に努めて参ります。

希少植物等の開花調査

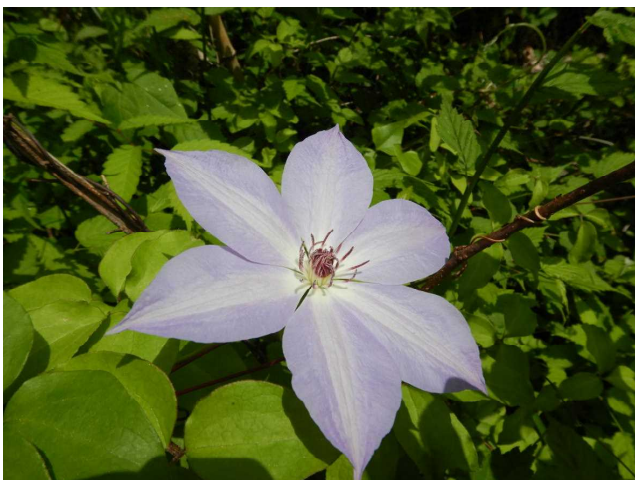
城山史跡の森は低山帯で本州の中部に位置していることから、東日本、西日本、太平洋側、日本海側に見られる植物が混在し、その数は470種以上といわれています。

また、長野県の希少野生動植物に指定されているヤマシャクヤク、カザグルマ、ササユリが生育しており、これら3種の生育地に加えてカタクリの生育地での開花状況等の調査を実施しています。

◎ 今年度の開花数(カッコ書きは平成29年度の開花数)

ヤマシャクヤク	177	(207)
カザグルマ	111	(70)
ササユリ	37	(32)
カタクリ	14	(37)

今年度は例年より10日程度開花時期が早まる傾向でしたが、各種ともに概ね良好な生育を示していました。



カザグルマ



ササユリ

城山史跡の森植物観察会

木曾町環境協議会主催の植物観察会が4月29日（日）に行われ、木曾郡内の小学生を含む参加者と講師、スタッフ、当センターから2名が参加し合わせて約30名が、春の暖かな日差しが舞い込む中、いろいろな植物の観察を楽しみました。

この観察会は、毎年、木曾町福島の「城山史跡の森」で行われているもので、当日は植物に詳しい県植物研究会員の講師と城山史跡の森倶楽部の会員の案内で、約8キロの行程を植物や史跡の説明に耳を傾けながら散策しました。

今年は、春先の気温が高かったことから花の開花が早く、見ごろむかえた植物も多くあり、普段町の中では目にすることが少ない植物の特徴や名前をメモや写真に収め、城山国有林が北限というイワタバコや同倶楽部の会員と当センターが保護活動をしているカザグルマ、カタクリなど希少な植物の観察や、この地の歴史、権現滝付近に生息する生き物について熱心に学びました。



植物観察をする参加者

森林ボランティア作業支援

名古屋市民の森づくり

愛知県名古屋市での「名古屋城本丸御殿復元事業」の一環として、平成21年から実施されている活動で、木曾川上流域の豊かな自然環境を残そうとすることと上下下流の交流を図る目的で、名古屋市民による「平成の名古屋市民の森づくり」活動が5月19日（土）に木曾郡木曾町の町有林で行われ、今回で10回目となります。



名古屋市民による植付作業

当日は前日までの雨もあがり青空の中開会式が行われ、中でも長野県林業士会木曾支部によるチェンソーによるカラマツの伐倒デモンストレーションでは、その迫りに歓声が上がりました。開催式終了後に名古屋市民120名と関係者を合わせて約200名は、班毎に分かれヒノキのほか、クリなどの広葉樹を合わせて730本の苗木を植えました。当センターでは木曾森林管理署と連携し、道具の貸し出しや安全及び植え付け指導を行いました。

地球緑化センター

NPO法人「地球緑化センター」では、日本各地での森林を守り育てる活動を推進するため、平成8年に木曾郡上松町赤沢自然休養林で市民参加による森づくりとして「山と緑の協力隊」第1回プログラムを開始以降、自然休養林に隣接するヒノキ人工林等での森林整備作業を継続して実施しています。

5月19日（土）、20日（日）に行われた「第213回山と緑の協力隊」では15名の参加者のもと、約20年生の人工林ヒノキの除伐作業を行い、当センターは木曾森林管理署と連携して、道具類の貸し出しや、安全および作業指導を行いました。

初めて協力隊の作業に参加された5名のみなさんは鋸の使い方に戸惑っていましたが、グループ班長らのサポートもあり、慎重に伐採するなど丁寧な作業に努めていました。



除伐作業を行う参加者

林業体験指導

上松技術専門校

長野県上松技術専門校は、木工加工の技術を習得する単年度修学の職業訓練校です。森林の役割と維持管理の大切さ・大変さや木曾の林業の歴史を学び、木材の有効活用を意識づけることを目的として、毎年林業体験を行っています。



熊皮剥き防止テープを巻く訓練生

5月9日（水）訓練生約38名により、熊による皮剥き被害を防止するため、植栽されたヒノキの幹に熊皮剥き防止テープを巻く作業を実施しました。あいにくの雨の中の作業となり、最初は戸惑いながらでしたが、時が経つにつれ、なれた手つきで多くの造林木にテープを巻くことができました。

作業終了時には雨も上がり、赤沢自然休養林まで移動し、学術参考林の「千本立」、「奥千本」を見学し木曾ヒノキの歴史等について学びました。当センターも木曾森林管理署職員とそれぞれのグループにおいて作業の指導と散策の案内を行いました。

犬山中学校

愛知県犬山市の犬山中学校は、市の水源の一つである木曾川上流の木曾地域において、木曾の自然や文化を学ぶ木曾総合学習を2日3泊の日程で平成11年から毎年行っており、今年で20年目となりました。

2年生の約210人は、その最初の体験学習として、5月15日（火）に赤沢自然休養林内で、遊歩道へのヒノキチップ敷設作業と森林散策を3つのグループに分かれ行いました。

当センターも木曾森林管理署職員とそれぞれのグループにおいて作業指導と散策の案内を行いました。



遊歩道に撒くチップを運搬する生徒達

木曾青峰高校



チップ敷を行う生徒達

木曾郡木曾町にある木曾青峰高校では、毎年体験学習として、赤沢自然休養林内の遊歩道へのチップ敷設作業と森林散策を行っています。

5月25日（金）は、1年生の約150名は8班に分かれ、生徒全員が新緑が芽吹く好天のなか、学術参考林の「奥千本」を含む約2時間の散策と、各散策コースでチップが薄くなった箇所、生徒自らヒノキチップの袋詰めから運搬、更にチップ敷きを汗をかきながら作業を行いました。

当センターも木曾森林管理署職員とそれぞれのグループにおいて作業指導と散策の案内を行いました。